

VISTA 7 ユーザーレポート

中京テレビ放送株式会社 様

VISTA 7



新設の第二 MA 室に VISTA 7 を採用



中京テレビ放送株式会社様は、年々増加する一方の MA 作業に対応すべく「第二 MA 室」を増設。メインコンソールとして VISTA 7 を採用、斬新なアイデアを取り込んだ最新の MA スタジオを完成させました。

中京テレビ放送株式会社
制作技術部 大橋 道生

1. 会議室から MA 室へ

第二 MA 室の設置が決まった場所は地下の会議室でした。奥行き 4,800mm、幅 5,400mm とかなり狭い空間で、5.1 サラウンド対応の音響設計を考慮しなければならず、株式会社ソナに音響&空調設計を依頼しました。ベースマネジメントシステム、モニターアライメントシステム等の様々なノウハウを駆使して、素晴らしいモニタリング環境を実現していただきました。

2. VISTA 7

コンソールにはスチューダーの新製品 VISTA 7 を選びました。このコンソールは 4 月に発表したばかりで、機種選定時にはまだ日本に実機もなく、情報も少ないような状態でした。にもかかわらずこの機種に決定したのは以下のような理由からです。

・ D950 との共通性

当社 B サブで D950M2 の実績があり、DSP コアや入出力ボード等のハードウェア部分で 2 機

種は共通であり、さらに機能設定用のソフトウェアもほぼ共通であったからです。

・ わかりやすいユーザーインターフェイス
コンソールデスク面の液晶パネルに直接ロータリーエンコーダ等が取り付けられているなど、ユーザーインターフェイスを大変重視してあることが見てとれました。デジタルコンソールとしてはこれまでにないタイプの使いやすい製品になっていると感じました。

・ ダウンミックス・コンフィグが可能

5.1 サラウンド・ミックスをすると自動的にステレオ・ダウンミックスも出力される仕様ができる、というのも魅力的でした。これは D950 でも可能ですが、単にモニター関連を切り替えるだけでなく、同時に本線出力として取りだせるのはとても便利です。

・ オートメーション機能の充実

VISTA7 はポストプロダクション向けに開発された音声卓ということで、ジョグによるオートメーション・データ書き込み機能がスチューダー製品で初めて搭載されていました。既設 MA 室（第 1MA 室）では他社のコンソールを使用しており、ジョグによるオートメーション書き込みを非常に多用してきたため、この機能は必須項目でした。

・ 省スペースであること

マシンルームも限られたスペースだったため、ラックマウントするフレームが 20U 足らずで済んでしまうのも美点でした。コンソールデスク

も洗練されたデザインで、かつその機能の割にコンパクトサイズであり、この部屋のニーズに合っていたと思います。

3. DAW

DAW は当初、定番とされる高級機種をいくつか候補に上げましたが、今ひとつ決めきれないでいました。そこで以前から気になっていたスイス MERGING 社の Pyramix システムのデモをしてもらったところ、十分な実力があることがわかり、また価格も廉価だったため、高級機 1 式分の予算で思いきって Pyramix を 8 式購入することにしました。おかげで第 2MA 室、第 1MA 室、生放送用 B スタジオサブ、音効仕込み用、そしてレコード録音室に 4 式と、ほぼ全室に配置する事ができ、一気に全ての場所の DAW 機器を共通化することに成功しました。

4. 導入後の感想

VISTA 7 は予想通りとてもわかりやすい操作性で、すぐに使うことができました。ギャンギング等の新しい機能もデジタルならではの利便性、とても便利です。もはやアナログと同じ操作性だからと言った理由でデジタルコンソールを選択する必要はないと改めて感じます。また、仕様を納入後でも変更していける安心感は何にも代えがたく、こういった柔軟性を持った機器こそが次世代の標準機になるべきであろうと確信しています。